れんごう鳥取

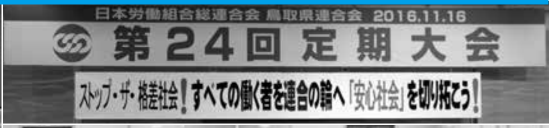
2016年12月1日
No.12

JTUC
発行・日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人・本川博孝　編集人・米村 徹
〒680-0847　鳥取市天神町30-5
TEL(0857)26-6605・FAX(0857)26-6615
E-mail:tottori@mlaa.rengo-net.or.jp
ホームページ: http://www.rengo-tottori.net

社会の不条理に立ち向かおう！
－連合鳥取第24回定期大会を開催－

連合鳥取は11月16日(水)、白兎会館(鳥取市)において、来賓・代議員・役員を合わせ総勢180人(代議員114人・特別代議員3人・執行部32人／うち女性15人・13.2%)の参加のもと、「第24回定期大会」を開催しました。2016年度活動・決算報告ならびに2017年度活動方針、予算を提案し満場一致で承認されました。

写真上)本川会長



本川博孝会長あいさつより抜粋

■2016春季生活闘争■

すべての労働者の処遇改善に向け取り組みを展開した結果、111組合中89組合で要求書が提出され、その結果、加重平均で4,241円(昨年同期246円UP)の引き上げとなった。非正規労働者の処遇改善は、賃金引き上げが9組合、企業内最賃は7組合が引き上げをするなど、3年連続で賃上げ回答を引き出した。

しかし、成果と前進がある中で、「総労働時間の短縮・時間外割増賃金の引き上げ」、「非正規労働者に対する取り組み」について大きな前進を図ることができなかったことや、300人以上の規模と99人以下の規模間賃金格差の是正が依然進まないという課題を残した。

引き続き、2017春闘では、すべての働く者の処遇改善に向けて取り組みを進めていかなければならない。中小で働く仲間、未組織・非正規労働者の処遇改善につながり、公務労働者の人事院勧告や、ひいては最賃にも影響していくからである。

■政治課題■

連合は、比例区において12人の組織内候補を擁立し、8人が当選した。また、選挙区においては、無所属で新人の「福島浩彦」さんを推薦し取り組んだが、自民党候補に勝利できなかった。

今回の選挙区選挙は、初めての鳥取・島根合区選挙であった。①両県で支持を広げることができる候補者擁立に時間がかかった、②出遅れたことにより、各産別組織内候補と連携のとれた取り組みが十分できなかった、③無所属の候補ではあり、いくつかの産別では候補者の掲げる政策との違いがあった、④原発反対で運動を進めている市民団体や対局にある政党(共産党)との関わり、などこれまでとは事情が違い戸惑いもあり、選挙区選挙の取り組みを敬遠する動きもあった。

安倍一強政治に歯止めをかけることが、私たちの大きな争点であったとすれば、「共闘することの意義はあった。野党乱立、民進党単独での選挙戦だったとすれば、より厳しい結果であった」と認識しなければならない。

連合は、結成以来、対極にある政党(共産党)とは行動を共にしないことを確認し運動を展開してきた。構成組織から反対する意見もあり、離れた組合員がいたことも事実である。労働組合と政党との関係について、きちんと整理しておかなければならない。

次回の衆議院議員選挙では、連合鳥取推薦候補・湯原俊二さんの必勝に向け最大限の力の結集をお願いする。

改めて、参議院選挙は厳しい状況の中での闘いであった。ご奮闘いただいたみなさんに心から敬意を表したい。

■働くことを軸とする安心社会について■

1980年頃に過労死が社会問題化して30年が経過したが、依然として過労死する労働者が減らない。過去10年間で業務における過重な負荷による脳・心臓疾患を発症し、労災と認定を受けた件数は300件前後で推移し、そのうち死亡に至ったケースが毎年100件を超えている。業務における強い心理的負荷により精神障害を発症し労災と認定を受けた件数は2014年度約500件で、その内99件が自殺であり、20～30歳代が全体の5割を占めている。原因は、長時間労働、過重労働、パワハラ、いじめなどさまざまである。

そのような中、現政権の目玉政策は「働き方改革」である。①同一労働同一賃金、②長時間労働の是正、③女性・高齢者の活躍、などが大きな柱と位置づけられている。雇用形態間の合理的な理由のない処遇格差の禁止や、残業時間に一定の上限規制を設ける方針のようだが、一方で、長時間・過重労働を助長しかねない「裁量労働制の業務拡大」や「高度プロフェッショナル制度」の導入のための労働基準法改正も準備されている。誰のための、「働き方改革」なのか疑問である。

私たちは、今日よりも明日、少しだけ幸せな生活を営むため、結婚し子どもを産み育てることができる生活、ささやかな願いを実現させたいだけなのだ。そんなささやかな希望も、この国の政治は叶えてくれない。この国の社会は受け入れてくれない。

社会の不条理に立ち向かい、すべての働く者・生活者の希望と安心を取戻し暮らしの底上げ・底支え、格差是正が「働くことを軸とする安心社会」の実現に繋がる。改めて、労働組合の運動が重要になっていると感じる。

－「第24回定期大会」についてはフォトニュースもご参照ください－

鳥取県の最低賃金/産別最賃が変わります

業種	金額	現在	発効
電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業	764円	(現在753円)	2016年12月22日発効
各種商品小売業	718円	(現在710円)	2016年12月17日発効

※前号の改定金額が間違っていました。訂正します。

鳥取県最低賃金 715円

連合鳥取　2017運動方針 <抜粋>

具体的な運動方針（補強部分抜粋）

【組織運営の基本】
・第25回定期大会の開催＜2017年11月＞
・連合鳥取「第３次男女平等参画推進計画」（～2020年10月）の具現化
・2017年11月の「執行委員定数増(女性代表枠)」に向けた取り組みの加速化

【連合鳥取組織人員目標 32,000 人の実現】
・組織アドバイザーとの連携強化
・労働相談や地域で得られた組織化に繋がる情報の共有と具体化促進

【組織強化】
・各種課題解決に向け、連合鳥取と構成産別との意思疎通を従来以上に深めるための「対話活動」の実施

【地域に根ざした顔の見える地協運動のさらなる進化】
・連合鳥取と地協幹事との「対話活動」の実施
・地域における運動への参画の強化
・「地協議長・事務局長会議（２回/年程度）」の開催

【内外における「発信力」の強化】
・組織ＰＲ活動強化策としてＳＮＳ等の活用促進

【労働教育の推進】
・ワークルール検定の鳥取県開催に向けた準備の実施
（2020年からは初級試験全県開催予定）

【平和運動の推進】
・「平和学習に関する現地学習会(沖縄)」の開催

【人権・連帯活動の強化】
・第88回メーデー大会の開催＜2017年４月29日（土）＞
・社会全体の防災力の向上、災害弱者対策の強化、防災・減災に必要な防災意識を高めるための防災学習会の開催
・連合本部、中国ブロック連絡会との連携による大規模災害発生時の対応等＜連合全体で取り組むボランティア活動＞への参画

【中国吉林省総工会との友好交流等】
・吉林省総工会との友好交流＜今年度は訪中＞
・鳥取県労働委員会を通じた韓国労働委員会研究交流団との交流

【クラシノソコアゲ応援団！ RENGO キャンペーン第２弾の取り組み】
・４つのメッセージとテーマ
①暮らし、苦しくなっていませんか？
→「給付型奨学金制度の創設」
「公平な所得税改革」
②仕事、きちんと報われていますか？
→「ワーク・ライフ・バランスの実現」
「不合理な格差の是正」
「公正な取引の推進」
③老後や子育て、不安はありませんか？
→「保育士・介護士の処遇改善」
④いまの政策、働く人が主役ですか？
→「政策実現を身近に感じる」

・社会の関心を喚起するためのＴＶＣＭや街宣行動の実施

【2017 春季生活闘争】
・社会に開かれた春季生活闘争の実現に向けた「地域フォーラム」の開催

【政治活動の基本】
・県内における勤労者の声を代弁する民進党との連携・支援の強化

【選挙活動の推進】
・第24回参議院選挙の結果・まとめ・アンケート調査の分析結果を踏まえた「次期国政選挙」に向けた準備の開始

【政治センターの機能強化】
・政治活動の幅を広げるための「政治団体連合鳥取政治連盟（仮称）」立ち上げに向けた検討と準備の開始

被災地の1日も早い復旧・復興を願って
－連合鳥取より倉吉市と中部町村会へ見舞金を贈呈－

11月10日（木）、本川博孝会長と田中穂事務局長、山田秀之副事務局長（中部地域協議会事務局長）が、倉吉市役所と鳥取県中部総合事務所を訪れ、石田耕太郎倉吉市長と吉田秀光中部町村会会長（三朝町長）と面会し見舞金を贈呈しました。

本川会長は「10月21日に発生した『鳥取県中部を震源とする地震』で被災されたみなさまの救援や、甚大な被害を受けた被災地の復旧に役立てていただくための資金として活用いただきたい。」と伝え、吉田中部町村会会長からは「宿泊施設や観光施設も現在は元気に通常営業しているが、風評被害による観光客のキャンセルなどに大変苦慮している」と、復興に向けた現状の説明がありました。

石田倉吉市長(左)と本川会長

吉田中部町村会会長(右)より説明を受ける本川会長(手前)と田中事務局長

働く女性の声を届ける
－女性委員会　山尾志桜里衆議院議員（民進党）と意見交換－

連合鳥取女性委員会は、11月13日（日）、スマイルホテル米子（米子市）において、民進党・山尾志桜里衆議院議員、湯原俊二さんとの意見交換会を開催しました。

山尾衆議院議員は現在５歳の男の子の母親であり、子育てと議員の両立を実現されています。また、議員になる前は検事としてあらゆる問題に取り組んでもいたそうです。「特別な女性ではなく、普通の女性の悩みを国会に届けたい。世の中の現実を知り、もっと政治に興味を持ってほしい。ＷＬＢ（ワーク・ライフ・バランス）で男女がともに生き生きと働き、みんなが幸せになる社会を次の世代に繋いでいきたい。」と力強く訴えました。

参加した役員の中からは、①女性管理職登用は以前に比べ増えつつあるが、あくせく働くその姿に、何の希望も夢も感じられない、②望んで子どもを産んだが、大きくなっていくあらゆる場面で、本当に大変だと悩む、③シングルで子どもを育てているが負の連鎖をひしひしと感じる、④配偶者控除の廃止ばかり議論されているが、〝父が正職で母が専業主婦子どもは２人〟という旧型モデルで制度化された内容は全て見直してほしい、などさまざまな意見が出されました。

連合鳥取女性委員会もこのような女性の会を開催し、さまざまな悩みを抱えながら家庭・仕事・子育ての両立に日々暮らす仲間の意見を聞き、「安心安全な社会の実現」をめざし取り組んでいくことが必要であると感じました。

前列中央／山尾衆議院議員

「湯原俊二　秋の集い」盛大に開催される

熱く語る湯原俊二さん

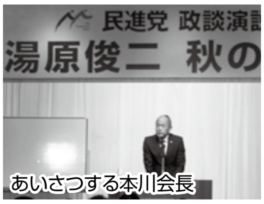
11月13日（日）午後、スマイルホテル米子（米子市）において盛大に「湯原俊二 秋の集い」が開催され、約350人の参加者（連合関係約150人）で会場を埋め尽くしました。

冒頭、民進党鳥取県連伊藤保代表のあいさつ、続いて、連合鳥取より本川博孝会長が「民主党設立当時からの付き合いであり、連合鳥取と民進党鳥取県連は連携が強い。連合の代表として働く側に立った『働き方改革』となるように長時間労働・過重労働に対峙してほしい」と連帯のあいさつを行いました。

湯原俊二さんからは「強い人がより強くなる政治ではなく、頑張っている人が報われる政治や『子育て・教育の充実』に光を当てていく政治が私たちの求める政治である」と力強くあいさつがありました。

そして、東京から駆けつけた民進党本部前政調会長の山尾志桜里衆議院議員が、「2009年同期当選からの湯原さんとのつながり」、「待機児童について安倍首相に質問した舞台裏の話」、「米国次期大統領トランプが勝利に危機感を感じたこと」、「安倍首相の自分のやりたい事しかやらない政治姿勢」など約1時間にわたり政治情勢を講演されました。

質疑応答では、会場の女性参加者から出された「『政治＝選挙』と受けとめられ敬遠されるので、何か伝わるメッセージを教えてほしい」という問いに、「暮らしは政治だよ。政治は暮らしだよ」という言葉で締めくくられました。



あいさつする本川会長

山尾志桜里衆議院議員

中部地協「推薦議員との意見交換会」に38人（うち女性6人）参加

11月19日（土）夕方、恒例の「推薦議員との意見交換会」を開催しました。

中部地協・鈴木和夫議長は「鳥取県中部地震のお見舞い、参議院選挙の取り組みのお礼、自衛隊海外派兵で新たな任務に対する懸念、衆議院選挙に向けて湯原俊二さんの支援の輪を広げてほしい」とあいさつを行いました。

＜基調報告＞

■興治英夫県議会議員　■伊藤保県議会議員

「中部地震の対応として住民・市町の実態把握し県行政に要望したこと」を中心に報告。

■民進党県連副代表・湯原俊二さん

税金は会費と同じ。そこの住民の町づくりをする会費である。政治はその会費の集め方、使い方を決めて行く役目である。また、社会のルール（法律・条例）を作る場所でもあるので、社会保障・税金の使われ方等、皆さんの声を届けてほしい。

＜グループ討議＞

参加者を5グループに分け、連合がめざす政策のうち、①教育と働くことをつなぐ、②家族と働くことをつなぐ、③働くかたちを変える、を討議の柱に据えて行いました。

鈴木議長

湯原俊二さん

東部地協「労組対象研修会」に30人参加

11月22日（火）、人権啓発活動の一環として「労働組合対象研修会」を開催しました。

講師として、「みなくる」労働・雇用相談員・鈴木直子さんを招き、「マタハラは起こっています！～働きやすい職場を目指して～」と題し講演をいただきました。

講演は来年改正される「育児・介護休業法」、男女雇用機会均等法のポイントの説明、最近の「みなくる」の労働相談件数と傾向、職場の同僚から相談を受けたときの実際の言葉のかけ方を参加者同士で実演しました。

また、実際のマタハラの相談件数は少なく、不本意な形での退職も多く、制度を上手に活用して働きやすい職場をつくっていく必要がある、その場合制度を利用する人も周りへの配慮を忘れることがないよう、と強調し、研修会を終えました。

写真上）講師／鈴木さん

「鳥取県中部地震」直後 青年委員会「防災」について学ぶ －「学習会」に50人参加－

11月6日（日）、伯耆しあわせの郷（倉吉市）において、「防災学習会 ～災害はいつやってくるかわからない～」をテーマに、米田隆さん（日本防災士会鳥取県支部（写真））を講師に迎え、連合鳥取青年委員会「学習会」を開催しました。

前半は鳥取県中部地震の現状や、地震以外にも台風や豪雨などの災害というのはどういったものなのか、またその時に人はどのような行動をとればよいか等の学習を行いました。

また、後半は「クイズ形式で災害について学ぶ」として、災害に関するクイズをチーム形式で考えていただきました。

そして、最後に非常食の試食としてアルファ米の炊き込みご飯の試食を行いました。普段あまり口にすることのない非常食ですが、参加者には大変好評でした。

今回、鳥取中部地震後すぐの開催ということもあり地震がメインとなりましたが「災害はいつ起こるかわからない」、その時に人はどのような行動をとるとよいのかを考えておくことが重要ということを今回の研修で学習しました。

（寄稿　青年委員会　幹事　木村優司さん）

Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

第88回メーデー・ポスター図案募集

○締切り　2017年1月13日（金）必着

◎入選　最優秀賞１点（10万円）　優秀賞２点（各３万円）
最優秀賞は第88回メーデーポスター図案に使用。

応　募　方　法

1．**図案イメージ：**
①すべての働く仲間が結集し、働くことを軸とする安心社会の実現をめざす
②社会のうねりを呼び起こす運動の推進
③NGO・NPO等諸団体とのつながりや共感を深める
④東日本大震災をはじめとした被災地の復興支援、ならびに教訓を風化させない取り組みの継続・強化
以上の観点に基づき、**写真やイラスト等を用いたデザイン**

2．**対象：**連合組合員とその家族および退職者

3．**用紙：B4サイズ・タテ**、画用紙またはケント紙・１人・１点

4．**記載事項：**用紙の裏側に氏名、自宅住所・電話番号、所属労働組合・電話番号、構成組織名または、地方連合会名を記入のこと。記載もれがないようご注意下さい。

5．**送り先：**各構成組織（郵送または宅配便）

◎応募作品は返却しません。版権はメーデー実行委員会の所有となります。
(注意事項)著作権上の問題が発生する恐れのあるデータを使用しない。
写真についてもオリジナルのものを使用する。

第88回メーデー中央実行委員会　TEL 03-5295-0513
E-mail：rentai@sv.rengo-net.or.jp
〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台3-2-11　連合連帯活動局気付

ご存知ですか？「平和」について⑤

トランプ次期大統領によって世界情勢や日本の米軍基地にどう影響していくのか注視、、、。みんなでじっくりと考えてみよう！今回も「それってどうなの？沖縄の基地の話。」からお届けするよ！

連合のゆるキャラ ユニオニオン

これってどうなの？

米軍に守ってもらっているため、地位協定で米軍に特権を与えるのは当たり前？？？

海外旅行で日本製家電を使うときアダプターを持っていきます。地位協定はそのような「装置」と同じです。米軍が日本の国内法を守ると軍隊として機能しなくなります。飛行場で弾薬を乗せた飛行機を飛ばすと違法行為になり、日本に入るとき入国管理手続き、手荷物検査などをいちいち受けなくてはなりません。そうした日本の法規制を除外するのが地位協定です。一方、自国のルールを守らせることは主権の問題です。ですから、そのバランスが問題となります。英国やイタリアにも米軍は駐留し、日米地位協定とほぼ同じ内容の地位協定があります。大きな違いは英伊では基地の管理権を渡さないので、例えば軍用機を飛ばす回数や時間帯など細かく規制できます。そんな意識がない日本では米軍がやりたい放題です。米軍を自国の安保政策に利用する意図はどの同盟国も同じです。でも主権意識の希薄さが地位協定の運用に現れ、日本は特権を与え過ぎる問題があります。(屋良)

"ザ・議員"

興治　英夫　鳥取県議会議員

鳥取県中部地震の発災後ただちに、各小学校の避難所や梨が落下した果樹園、被災した家屋、事業所、墓地、県立施設、学校給食センター、JAの選果場やライスセンターなどを訪問し、そこで見つけた課題を知事や幹部職員に要望しました。

その結果、避難所にいた要介護状態の方を、福祉避難所で受け入れていただきました。また、アパートが被災したため退去せざるを得ない方々も、公営住宅に入居できるようになりました。被災した事業所への補助・融資制度もできました。JAの共同利用施設は、県と市町で有利な起債を使って激甚災害同様の9割補助となります。被害の厳しい倉吉未来中心は、早期再開に向けた取り組みが進んでいます。

また、宅地や擁壁が被害を受けたため自宅に住み続けることが困難な方への、支援金の支給も検討されています。倒壊した無縁墓が多くあるため復旧が困難な墓地への対策も求めています。

避難所にて

森　雅幹　鳥取県議会議員

鳥取県立美術館建設について

今社会で求められる能力は、「自ら課題を見出し、自ら解決する」能力とされ、学校では大きく教育内容を変えてきています。音楽、美術といった芸術科目が独創性を養う意味で、これまでと変わって見直されてきています。

一方、現在、「美術館等に行く、行かない」は、家庭の経済状況に大きく左右されています。家庭の状況にかかわらず、公教育として本物の芸術に触れる場（美術館）を提供する必要があります。しかも、学校教育として美術館での授業を義務付け保障（バス代など）すべきです。

また、往復時間のことを考慮すれば、建設場所は中部地域にするべきと考えます。

9月議会で質問

てんじんこらむ

先の大会にて新しい執行委員が決まりました。私たちの単組は各拠点からの選出により立候補を行い、選挙いたします。各職場の意見を現場でまとめるため配置しておりますが、仕事の内容から女性の候補の選出が難しく、この度の決まった執行委員のメンバーに一人しか出せませんでした▼男女平等参画としても、当単組としても、女性の意見を取り入れ活動を行わなければならないところ、非常に残念な結果と大きな課題となりましたが、当社に5年前から女性のみ集まり意見を出し合う組織があります。当単組としてもその組織と連携をとり、組合だけの活動でなく、会社全体の活動に変えていきたいと思っています。(U)

再生紙を使用しています